

かほくがた

とりもどそう! 河北潟
泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水

通信かほくがた vol.28-4
発行/NPO法人河北潟湖沼研究所
2023年5月30日

CONTENTS

- セイタカアワダチソウで草木染め 1p
シンポジウム報告
「ゴミに取り組むひとびと」 2p

- その他活動報告 4p
干拓地参加型鳥類調査
冬の河北潟干拓地自然観察会
高知県四万十川・仁淀川視察報告

河北潟の植生保全活動『外来種セイタカアワダチソウで草木染め』

2023年3月5日、河北潟干拓地で外来種セイタカアワダチソウの根や茎を抜き取りし、それを染料に染め物体験をする活動をおこないました。セイタカアワダチソウは、背が高くなった秋の状態で抜き取るよりも、春先に根っこごと抜き取るほうが楽で、効果的に除去できます。今年で2年目となる小さな活動ですが、ヨシなど在来の植物が増えていくことが期待されます。秋のイベントでは花を摘んで、花を染料に黄色に染める体験を行います。春先のイベントではタンポポのように地面に葉をひろげているセイタカアワダチソウを根っこごと抜き取って、地味な色合いに染めることとしています。

身近なところにたくさんある植物を、昔の人は日々の暮らしにうまく利用していましたが、いまは問題になるほど植物がはびこっていても、日常的に利用することはなかなかできません。一日のイベントですが野草を使って楽しく活用してみようというプログラムです。抜き取り作業では、根っこを切らずに、一番長く掘り取りした人が優勝としています。掘り取りすると地中に根が伸びている様子がよくわかります。今年は、6歳の男の子が約70センチも長い根っこを掘りました。掘り取った後は、河北潟研修館の室内にて、鍋2つでセイタカアワダチソウを煮出して染め、それぞれオリジナルの絞りを入れた作品が仕上がりました。

「ゴミに取り組むひとびと 河北潟からゴミをなくすためには」

はじめに高橋久（NPO法人河北潟湖沼研究所理事長）よりあいさつと趣旨説明がされました。河北潟の概要を説明した後、河北潟は流域の最下流部にあり、海にゴミが流れる前にゴミが溜まる防波堤のような機能があること、また金沢市が流域に入っており、人口も多いことから流れ着くゴミが多くなることが説明されました。同時に河北潟はとても美しい風景と環境を持ち、湖岸にはたくさんの動植物が生息していること、これらを守るために湖岸のゴミ拾い活動を継続していることが紹介されました。この河北潟のゴミ問題の背景には、ゴミを生み出す我々の社会、ゴミ処理のシステムが確立していてもゴミがなくなる現実があり、ゴミに関することを少し広く俯瞰し、ゴミに取り組む多方面の方たちの話を聞くことにより、参加者も含めてゴミについて考えていきたいという思いから、本シンポジウムの開催に至ったことが説明されました。

続いて河北潟湖沼研究所のメンバーより、河北潟のゴミの現状や取り組みについて報告されました。番匠尚子（河北潟湖沼研究所）からは、「河

北潟流域のゴミの現状、ゴミ調査結果について」と題して、河北潟の湖岸にゴミだまりとなっている場所があること、流域の川から流れてきたゴミが河北潟に集まっていること、わざわざ河北潟付近にゴミを不法投棄しに来ている人がいること、捨てる人はどうやら固定されているのではないかとということ等が報告されました。

続いて、川原奈苗（河北潟湖沼研究所 副理事長／河北潟クリーン作戦実行委員会 事務局長）より、「29年目をむかえた河北潟クリーン作戦～課題と可能性～」と題して、クリーン作戦で拾われるゴミの重量は年々減少傾向にあるが、漂着ゴミが多く、拾っても拾ってもなくなる状況、この10年で正確な記録がある分だけでも約39トンのゴミが河北潟の湖岸から拾われたこと等が報告されました。また、拾われたゴミが埋め立てゴミとして山に埋められることも多く、湖から山にゴミが移動している現状を、工夫して変えていけないかという意見も出されました。

次に行政や企業の方より、ゴミ処理の現状や課題、リサイクルやゴミ削減等の取組についてお話しいただきました。

金沢市ごみ減量推進課の寺陽介さん、若松大樹さんからは「金沢市のごみ減量の取り組み」として、金沢市の家庭ごみは4割以上が生ごみ、3割以上が紙ごみであること、この二つのゴミを削減する取り組みを紹介いただきました。電気式生ごみ処理機の貸し出しや購入助成の制度、段ボールコンポストについて、古紙回収の取組、食品や飲料

シンポジウム
ゴミに取り組むひとびと
2023年
2月24日(金)
14:00 - 16:30 (開演 13:30)
エコみらい河北研修室
+ZOOM によるオンライン
参加無料

河北潟からゴミをなくすためには

ゴミ処理ってどうされてるの？
ゴミ拾いたい時、どうしたらいいの？
拾っても拾ってもゴミがなくなるのはなぜ？
拾われたゴミはどうなるの？
リサイクルってどうなってるの？

なかなか解決しないゴミ問題、拾う人、集める人、処理する人、リサイクルする人...いろいろな人の取り組み内容と、抱えている課題や矛盾をきいて、ゴミ削減について考えよう

<プログラム>
● 河北潟のゴミの現状、ゴミ調査の結果や「河北潟クリーン作戦」の取組について
番匠尚子 (NPO法人河北潟湖沼研究所)
川原奈苗 (NPO法人河北潟湖沼研究所副理事長・河北潟クリーン作戦実行委員会事務局長)
● ゴミ処理の現状や課題、リサイクルやゴミ削減等の取組について
(予定) 株式会社中央設計技術研究所 / 河北都市広域事務組合
株式会社エフビコ / 金沢市ごみ減量推進課
*企業や地元行政の方より、いろいろな取り組みや課題等をご紹介します。
● ディスカッション

主催 / NPO法人河北潟湖沼研究所 〒929-0342 河北郡津幡町北中条9-9
電話076-288-5803 / FAX076-255-6941 / メールinfo@kahokugata.sakura.ne.jp
※本シンポジウムはエフビコ環境基金の助成を受けて実施します。

参加申込





が直接触れたものや防水加工された6缶パックの紙パッケージなどはリサイクルできないこと等、具体的にお話しいただきました。リサイクルの取り組みを進めている一方、資源搬入ステーションが混雑、渋滞し困っていることも紹介されました。

株式会社エフピコの若林大介さんからは「『トレートレー』エフピコ方式のリサイクルの取り組み」と題して、企業として取り組むプラトレの回収とリサイクルの仕組みについてお話しいただきました。トレの回収量の推移、回収してリサイクルされる量が増えていること、回収時にコストやエネルギーをなるべくかけないようにしていること、回収されたトレが人による手選別での作業を経てリサイクルされること、障がい者を積極的に雇用している経営等をご紹介いただきました。課題として、回収したトレの中に、リサイクルできないトレが混ざっており、それを削減して行く事、リサイクルできるトレの回収量を増やしていくことが挙げられました。

河北都市広域事務組合の菅田佳奈子さんからは、「河北都市のごみ処理について」と題して、4月から稼働する河北都市の新しいゴミ処理施設に

についてお話しいただきました。新施設ではこれまで別々の場所で行われていた燃えるごみと下水汚泥の処理を一か所でおこなえるようになり、また燃えるごみから作られたRDFを、これまでは志賀町にある施設まで運搬し、焼却と発電を行っていたものが、同じ施設で発電までできるようになること等が説明されました。また2022年にできたプラスチック資源循環促進法に基づいてプラ製品のリサイクルに取り組む必要があるが、現在の設備ではすべてを受け入れることが困難であり、対象品目を限定して取り組むことを検討中であることが紹介されました。

株式会社中央設計技術研究所の山本正樹さんからは、「脱炭素政策について考える」と題して、ごみ処理事業の経費に日本全体で一年間に約2兆円、国民一人当たりでは約16000円かかっていること、ゴミ処理技術やサービスの高度化でその金額が増加傾向であること等が紹介されました。またゴミ処理の経費は、収集、運搬にかかるものが4割ほどあり、分別や区分数が増えるとそれらにかかる経費やエネルギー消費が増えるということもお話しいただきました。脱炭素にはお金がかかり、リサイクルにはエネルギーを使うという矛盾があり、一部分だけを切りとってみるのではなく、ごみ処理システム全体をみて、考えていく必要があるというお話しでした。

さいごのディスカッションでは、それぞれの課題や矛盾について話し合いました。会場、オンラインあわせて60名の方にご参加いただきました。開催にご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様ありがとうございました。（文：番匠尚子）

このシンポジウムはエフピコ環境基金の助成を受けて実施しました。

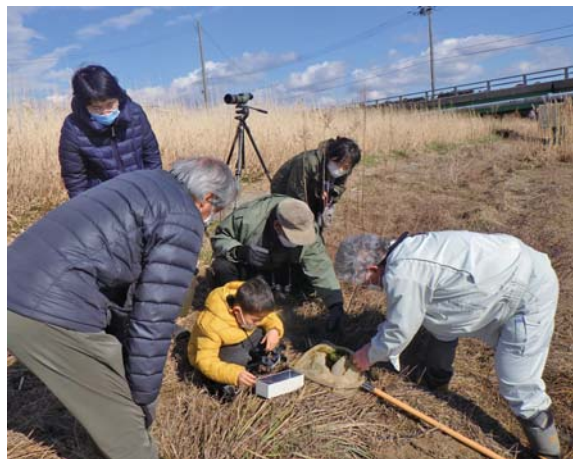


参加型鳥類調査

2023年1月～2月、河北潟干拓地で参加型鳥類調査を実施しました。防風林帯に生息する鳥類を対象とした調査では、カラスに追われて防風林帯に逃げ込むトラフズクが観察され、下草や低木の枝葉があり、周りから見えにくい環境の必要性を確認することができました。枝にとまったトラフズクの自然な表情を観察でき、参加者全員満足しました。このほか夜間のカモ調査や、最近干拓地で少なくなっているノスリの個体数調査などを実施しました。

冬の河北潟干拓地自然観察会

2023年2月23日、河北潟干拓地の中央幹線排水路沿いを歩く自然観察会をおこないました。良いお天気に恵まれました。水路にはたくさんのカモ類が飛来しており、畑に降りているツグミやアオサギ、木にとまったモズ、ノスリなどの鳥類を望遠鏡で観察しました。水辺のヨシ原沿いを歩いていると、タヌキの溜め糞も観察されました。水際を中心に水辺には外来植物のチクゴスズメノヒエがみられますが、ここに網を入れるとヌカエビやヨコエビ、小さなアメリカザリガニなどが見られました。チクゴスズメノヒエは、水の流れを妨げたり、在来植物の生育場所を奪う面もありますが、水辺の生きものの生息場所となっている面もあります。中央幹線排水路の下流部では、現在、河北潟周辺農地防災事業の一環で、改修工事が行われています。工事中のヨシ原だったところが更地になり、水際がコンクリートブロックで護岸されたところでは、水辺に網を入れても生きものは見つかりませんでした。今後このまま工事が進むと、重要なヨシ原が広範囲に消失することから、河北潟湖沼研究所では環境保全対策の見直しを北陸農政局に提案し、どのように施工・管理することが望ましいか関係者間で意見交換しながら検討していくこととなりました。



高知県四万十川・仁淀川視察

2023年3月13日～3月14日、流域を意識した取り組みを視察するために高知県へ行きました。四万十川では、中村河川国道事務所計画課を訪問し、四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会や、四万十川自然再生協議会の取り組みについてお話をうかがいました。活動内容や運営体制、取り組みの経緯など、とても丁寧に説明くださいました。またその後、四万十川財団を訪問しました。色々な人をつないで地域住民や環境保全を目的としたユニークな活動を展開しており、財団の役割の重要性が感じられました。翌日は仁淀ブルー観光協議会を訪問し、お話をうかがいました。



編集後記

治水対策では、土地の低い集落の住宅地の嵩上げ、豪雨時に洪水がおきやすい地域での遊水地の造成などがすすめられてほしいと思います。(N)